

出席登録・課題提出・オンライン試験システムの運用結果と効果

情報処理センター

岩崎彰典

1. はじめに

学生の出席意欲、予習・復習の重要性が指摘されている。そのため、出席登録・課題提出・オンライン試験システムを構築し08年前期に試験運用し、08年後期・09年前期に本格運用を始めた。試行例は少ないが今回、出席率の結果、及びオンライン試験による時間外学習の結果を報告する。

2. オンライン出欠システムの運用結果と効果

教員にとって出欠の確認が重要であるが、遅滞なく公正に行うことは大規模のクラスではかなり困難である[1]。例えば現在、携帯電話による出席登録も検討されているが本人の存在が確認できない問題がある。実際、メールアドレスを他人に教えることにより代返を行ったケースが認められる。本システムではログ上に発信元IPアドレスを記録することにより教室内のパソコン上からの出席登録かどうか分かるようにしている。

学生の出欠状況は、サーバー上のテキストベースのデータベースに表：1のように、出席日と出席か遅刻か30分以上の遅れかが記録される。日付の後のokは出席、ngは遅刻、xxは30分以上の遅れを表している。従って、教員は学生の出欠状況を授業開始時に把握することができる。

また、出席状況は「出席、遅刻、受講と認めない」をそれぞれ、2点、1点、0点と評価し、サーバー上に記録している。さらに出席ポイントをリアルタイムに学生へ提示するとともに携帯電話にも通知し、学生は自分の出席状況を知ることができる。このことにより学生の出席へのモチベーションを上げることを試みている。

表：2にサーバー上での出席ポイントの記録を示す。メールでの出席確認時点での出席率を表：3、学生にリアルタイムで出席状況を伝えている場合の出席率を表：4に示す。正式な運用期間は少ないが若干の改善が認められる。

表：1 出席登録の例

```
1021ok, 1028ng, 1104ok, 1111ok, 1118ok, 1125ok, 1202ok, 1209ok, 1216ok
1021ok, 1028ok, 1104ok, 1111ok, 1118ok, 1125ok, 1202ok, 1209ok, 1216ok
1021ok, -----, -----, 1111xx, -----, 1125ok, 1202ok, 1209ng, -----
-----, 1028ok, 1104ok, 1111ok, 1118ok, -----, 1202ok, 1209ok, 1216ok
1021ok, 1028ok, 1104ok, 1111ng, -----, 1125ok, 1202ok, 1209ok, 1216ok
1021ok, -----, 1104ok, 1111ok, -----, 1125ok, 1202ok, 1209ok, 1216ok
```

表：2 サーバー上への出席ポイントの記録

	出席ポイント
q08x053aa@std.ous.ac.jp 1216	17
q08x054bb@std.ous.ac.jp 1216	18
q08x055cc@std.ous.ac.jp 1209	7
q08x056dd@std.ous.ac.jp 1216	14
q08x057dd@std.ous.ac.jp 1216	15
q08x058ee@std.ous.ac.jp 1216	14

表：3 メールでの出席確認での出席率

学期	05 前期	05 後期	06 前期	06 後期	07 前期	07 後期
出席率	84%	76%	89%	87%	96%	87%
学生数	75	75	60	60	50	41

表：4 本人にリアルタイムで出席ポイントを連絡した場合の出席率

学期	08 前期	08 後期	09 前期
出席率	90%	88%	90%
学生数	81	53	100

概ね前期の出席率が良いのは、前期が必修であるためであろう。また、受講生が少ない場合も出席率が良い傾向がある。さらにポイント制を利用した場合、欠席数が多くなった場合はそれ以降、出席しなくなる傾向も見受けられる。

メールでの出席登録の場合、他人のアカウントで出席登録をしている学生が存在したが、本システムによってそれは無くなった。しかし、多人数の場合、出席登録後、後ろの席から出て行くケースも指摘されており、授業の最後までいたか確認できるような仕組みを考案していきたい。

3. オンライン試験の運用結果と効果

オンライン試験の特長は「いつでもどこでも」予習・復習ができることである。授業時間外の予習・復習の重要性がしている中、学生の自主的なオンライン試験へのアクセス数を調べた。表：5に授業時間外にオンライン試験へアクセスした件数を示す。09年前期の授業前のアクセスが非常に多い。実際、早くから来てオンライン試験を行っている学生を多く見かけた。反面授業時間外の利用が激減している。以外なのは、学外からのアクセスが少ないことである。携帯電話からもアクセスが可能なので、通学時間等を利用するなどの学習を促進したい。

表：5 授業時間外でのオンライン試験の使用実績

	授業前	授業時間外	学外から
08後期	35	52	8
09前期	116	11	8

オンライン試験の効果としては、出席登録後に時間のある学生が、ブラウザ上でゲームや動画を見る場合が多いが、注意をすることによってオンライン試験をさせることができる。

4. まとめ

I C T活用が叫ばれているなか、重要なことは、学生のモチベーションを如何に上げるかと考えられる。例えば、定期試験時に自分のW e bメールアドレスを覚えていない、ファイル添付の際、ファイル名に全角を使ったり、空白があるケースがあり、教員がそのファイルを見ることができない等の問題が存在している。そのような基本的情報リテラシーの教育も含めシステムを改良していきたい。

参考文献

[1]今野浩, 数理決定法入門—キャンパスのOR—, pp. 90-, 1992